宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2019

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

国護る御祭神の御心を次世代に

靖國神社御創立150年記念大祭

戸畑祇園東大山笠・小東山笠が奉納運行

東京都千代田区の靖國神社（山口建史宮司）で御創立百五十年記念大祭が斎行され、10月19日には第一日ノ儀が、20日には第二日ノ儀が執り行われた。小雨の10月19日、靖國神社境内には内外から多くの参拝客が訪れた。

戸畑祇園東大山笠・小東山笠奉納運行＝10月19日、東京都千代田区の靖國神社

御創立百五十年を記念して、御祭神を殿霊し、御祭神の御心を次世代に伝えていく神楽舞「国護の舞」が作られた。作曲・作舞は豊英秋・元宮内庁式部職楽部首席学長、歌詞は上皇后陛下が平成8年の終戦記念日に詠まれた御歌「海陸（うみくが）のいづへを知らず姿なきあまたの御霊国護るらむ」

午後10時、大太鼓が境内に鳴り響き、拝殿で創立百五十年を祝賀する参列者が待つ中、宮司・神職が参進し、本殿所定の座に着いた。国歌斉唱に続いて宮司が本殿内陣の御扉を開き、権宮司以下が神饌を供し、初獻の神酒を奠した。

その後、宮司は神前に進み祝詞を奏上し、英霊に感謝の誠を捧げた。権宮司が二獻の神酒を奠した後、新神楽舞「国護の舞」が奉奏された。権宮司が三獻の神酒を奠し、宮司が玉串を奉って拝礼した。続いて特別参列者及び崇敬者総代が本殿に進み玉串を奉って拝礼した。続いて一般遺族崇敬者が昇殿参拝した。午後3時、神饌が撤せられた後、宮司が御扉を閉じ御百五十年記念大祭・第一日ノ儀は滞りなく修められた。

秋季例大祭、御創立百五十年記念大祭の期間中には境内では献華展や菊花展、能楽堂では各種奉納芸能が行われ、17日から20日にかけて日本古来の芸能等が大勢の参拝者が見守る中、奉納された。また、19日には御創立百五十年記念大祭を祝し、戸畑祇園東大山笠・小東山笠奉納運行が行われ、国内外の参拝者から大きな歓声が上がっていた。

靖國神社御創立百五十年特別展

靖國神社の遊就館では昨年から前編・後編に分けて「靖國神社御創立百五十年特別展」を開催している。前編では、18世紀以降、欧米諸国がアジアに進出してきた時代から、明治2年の神社創建までを取り上げ、今年3月16日から12月8日までの後編では創建から今日までの神社史を中心に展示解説している。

後編の特別展は8章、「招魂社の創建」「明治初期・招魂社から靖國神社へ—」「明治期の靖國神社—明治初期から日露戦争まで—」「明治から大正へ—靖國神社の変革期—」「満州事変から支那事変」「大東亜戦争—終戦と神社存亡の危機—」「戦後の靖國神社のあゆみ」「国民の崇敬と靖國神社のこれから」で構成されている。

一燈園で恒例の「秋の集い」

「比叡山の写経行」学ぶ

京都・山科

講演する水尾寂芳師

一燈園恒例の秋の集いが10月19日、京都市山科区の一燈園（光泉林）で開催された。式典の後、比叡山延暦寺財務部長の水尾寂芳（じゃくほう）師が「比叡山の写経行」と題して講演、最澄、円仁に始まる仏道としての写経の歴史を学んだ。

午後は、映画「二宮金次郎」が上映された。勤勉・節約・分度・推譲の四つの徳を説く二宮尊徳の『報徳記』は北海道開拓時代の西田天香の枕頭の書の一つで、その思想形成に深く影響している。

挨拶に立った西田多戈止当番は「一燈園は明治37年に始まり、その後、山科に移り、昭和5年に祈りの中心である愛善無怨堂が作られた。礼壇には日本の礎をつくった太秦広隆寺の聖徳太子の霊灯と日本仏教の源である比叡山延暦寺根本中堂の不滅の法灯、伊勢神宮の分身とされる蹴上の日向大神宮の灯、天香さんが火打石で得た一燈園生活の祖霊を祀る家廟の灯を合わせて点じ、祈りの中心として灯し続け、私の年と同じ89年になる。天香さんは火は人の心を湧き立たせ、元気を呼び起こすと思っていたのではないか。比叡山とは深い関係があったことが想像される」と述べた。

『伝教大師最澄の寺を歩く』の共著者でもある水尾師は、比叡山の写経行について次のように講演した。

根本中堂には三つの灯篭があり、火の衰えに気づいたものが油を注ぎ足している。不滅の法灯は伝教大師最澄が22歳の時に堂を建て、薬師如来を祀り、「明らけく後の仏の御世までも 光りつたへよ法の灯」の歌を詠み、灯したもの。最澄が願うように、この灯を皆さんの心にも灯し、その光で一隅を照らしていただきたい。灯にはそれを守ってきた無数の人たちの願いが積み重なっている。その法灯が分灯され、守っていく人たちがいるのはありがたい。

明治の初め、経済的に困窮していた比叡山に、毎月、油を担いで登ってきた人たちがいた。戦時中の物資の統制下でも、根本中堂には油が配給されていた。不滅の法灯はいろいろな人に守られてきている。

写経では般若心経の筆写が広く行われている。延暦寺では各堂に机とい す、筆ペンなどを用意し、般若心経や「南無阿弥陀仏」などの短い法語も気軽に写経できるようにしている。奈良の薬師寺では写経の力で堂を復興、修復することができた。比叡山でも今、根本中堂の大改修を行っているので、結縁大写経を進めている。

写経の本義は、静かな空間で正座し、墨をすり、手本の漢字を写すこと。座椅子を使っても写経の尊さは変わらない。写経の最後に、初願成就や故人の菩提を弔うためなどと書く。写経は善行、功徳であり、それを願う人やことに振り向ける意味で、仏道修行と認められている。

写経の歴史をたどると、中国天台宗の開祖・智顗（538～597）の師匠で、末法思想を中国人として初めて明言した南岳慧思（515～577）がいる。比叡山では最澄の直弟子・慈覚大師円仁が如法写経を始めた。円仁の写経に思いを寄せ、写経を納めたのが藤原彰子（上東門院）で、摂関政治の頂点にいた藤原道長の娘で、一条天皇の中宮、後一条、後朱雀の二帝の母で、紫式部が女房として仕えていた。

（4面に続く）

灯

「だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。『わたしたちはあなたのために終日、死に定められており、ほふられる羊のように見られている』と書いてあるとおりである。しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。」（ローマ人への手紙8・35—39）

殉教者を祈念して祈る時、パウロの言葉を思い起こす。厳しい弾圧と迫害の下、キリストと共に生きキリストと共に死ぬことを善しとした殉教者の精神は、神のひとり子の愛に支えられている。罪の縄目に縛られ苦悩する人類を救わんがため、自らの生命さえも惜しまなかった救い主の精神を継承し、この時代に顕現させようというのだ。（1）

社説

日本の当たり前を世界へ

世界最大級のアメリカの動画配信サービス「ネットフリックス」で、今年1月から放映されている番組「KonMari 人生がときめく片づけの魔法」が大ヒットし、人気を高めているのが片付けコンサルタントの近藤麻理恵さん。2010年末に出した『人生がときめく片づけの魔法』（サンマーク出版）が100万部を超えるミリオンセラーになり、14年に英訳本が米国でもヒットしたことから、活動拠点をロサンゼルスに移している。

近藤さんは雑誌TIMEの「世界で最も影響力のある100人」にも選ばれ、ワシントン・ポスト紙は「買いすぎ、ため込みすぎという現象についての国民的な議論の口火を切った」と評している。シンプルライフを目指すミニマミストの風潮にも合い、日本人なら当たり前のことが、アメリカ人を感動させているという。

これからの生き方

上述の番組は、家にモノがあふれて散らかる家族を近藤さんが訪れ、片づけ法を指導し、家と家族を再生に導くという一話完結型シリーズ。背景にあるのがアメリカの飽食・物質文化で、あふれるモノに束縛され、人々が不機嫌になっている。そこに小柄で可愛い近藤さんが「ハロー！」と言って現れ、一緒に片づけをすると、家はみるみるきれいになり、住民も笑顔を取り戻していく。片付けのメソッドだけでなく、その先にある生き方のチェンジを指南するのが特徴で、人気の秘密であろう。

近藤さんが著書で「捨てられない原因を突き詰めていくと、じつは二つしかありません。それは『過去に対する執着』と『未来に対する不安』」と言うのは、仏教が教える「今に生きよ」、神道の「中今（なかいま）」の思想と同じである。

基本にあるのはモノとの対話で、「すべてのモノは、あなたの役に立ちたいと思っています。モノは、捨てられて形がなくなったとしても『あなたの役に立ちたい』というエネルギーは残ります」と言う。だから、要らなくなったモノは「ありがとう」と言って手放す。それを彼女は「家を出ていくモノたちの門出を祝うお祭り」と言い、だからこの作業着ではなくフォーマルな服装で現れる。

残すか捨てるかの基準は「ときめく」かどうか。ときめかないものは、その役割を終えたので手放す。ひと目で何がどこにあるかわかるようにし、大きく何をどこに置くか一カ所に決めると、人の動線が決まってくるので、そこから「ときめき」で判断していく。モノにも心を見るのは、縄文時代からのアニミズム的な日本人の心性だが、それが一神教の影響が強い欧米人にも受け入れられているのが興味深い。

脳科学者の茂木健一郎さんは『なぜ日本の当たり前に世界は熱狂するのか』（角川新書）で、「物に精神性を求める発想は、八百万の神の世界観に極めて近いものがあり、片付けを理論的な作業として捉える外国人にとっては新鮮なものだったにちがいない。またそうした哲学は、物を捨てられない、片付けられないことに悩み苦しみ、自らを責める人々の救いにもなっている」と述べる。

浄土真宗の若い僧侶・松本紹圭さんは『お坊さんが教えるこころが整う掃除の本』（ディスカバートゥエンティワン）が15カ国語に翻訳されたとき、英国の記者から「他人に任せてはいけないのか」と聞かれ、「掃除は修行です。あなたは坐禅や瞑想を誰かにお金を払ってしてもらいますか」と答え、納得させたという。日本の小中学校では、生徒が教室や校庭を掃除をするのは当たり前だが、海外では掃除は人に任せるのが一般的。掃除を修行にまで高めたのは、神道をベースに日本化した仏教の影響が大きい。

天皇陛下の歌碑

瀬戸内国際芸術祭が開かれている香川県丸亀市の本島を訪ねると、塩飽勤番所跡の庭に皇太子時代の天皇陛下の歌碑があった。学習院大学時代、瀬戸内海の海運の研究で訪れられた記念である。水問題をライフワークとされた陛下は、世界水フォーラムの名誉総裁を務めるなど、ご自身の考えを世界に発信されている。そこに令和時代の天皇の新しい在り方を見ることができよう。

日本人としての当たり前を大切に継承、学習しながら、地球環境問題が人類的な課題になった時代に、一人ひとりが日本からの提案をすることのできる国民になりたいと思う。

西田多戈止一燈園当番

天地

天地子が今春、地域の環境整備のため自治会の比較的アクティブな仲間と立ち上げたのが里山クラブ。10月下旬、小高い山の上にある小学校からよく見える田んぼに、レンゲと菜の花の種をまいた。米の収穫を終えてから、来年5月の田植えまでの活用で、3月から4月の卒業式、入学式のシーズンに花を咲かせ、子供たちの目を楽しませるのが目的▼並行して、通学路の美化を進めている。アスファルトの道端に生えた草をとり、水路の泥と草も取り除く。農作業のためにはそこまでする必要はないのだが、子供たちの目に触れる環境を、少しでもきれいにしておきたい▼天地子の集落は、平野の中の独立山のふもとにあり、近年、イノシシの害に悩まされている。イノシシよけのため、山すそにフェンスを張り巡らせているので、定期的に草や竹、雑木刈りなどのメインテナンスもしなければならない。都会暮らしに比べて、地域での暮らしは、やろうと思えば、することに限りがないので面白い▼いろいろやっていると、「徳は孤ならず必ず隣あり」（論語）で、参加する仲間が増えてくるのもうれしい。子供の頃の共同体のきずなが、少し回復したようにも思える▼ラグビーワールドカップでの日本代表の活躍で、今年は楽しい秋になった。違うポジションや国籍、民族の選手たちが助け合い、「ワンチーム」で勝利を目指す。隣人のために生きることがそのまま世界の平和につながるような国にしたいと思う。

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇—〇〇二二 東京都新宿区新宿5—13—2—4F
電話 03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mailreligion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀 エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162—0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305 FAX078(801)0006

日本よ、蘇れ 日本神話の知恵
出雲井晶 著
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

たま出版 www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

新刊！
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土恵想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
四六判296頁（本体1500円＋税）
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL03-6657-9000 Fax03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

読みやすく、理解しやすく、真髄を極める達意の新訳
クルアーン やさしい和訳
監訳著・水谷 周 訳補完・杉本恭一郎
2019年7月第3版発行、資料増補、大改訂 定価2700円＋税
国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421